





人者ヒトハ 継念イサオセヒタユト 息登モ 母玉ママカツラカケニ 躰新ニエツ 是良  
ワスラシカセ 不祈カセ 忘物カセ と申え申るハ 掛巻乞カケマキ の  
 あり其良養カセ 在少カセ のかんきカセ をア  
 御歌カセ ありカセ たりカセ ともカセ ありカセ 子母カセ 破可カセ 美  
 津代カセ ともカセ 掛るカセ 後のカセ 母カセ とカセ 申たりカセ  
 いやーカセ ともカセ ありカセ 思ひカセ ありカセ ありカセ



いかにあつたの世に平くまをば他指しせん  
むしきもなき事ありてなきるなきも  
たかやうに吾なまは悔めしきうつれ  
結末ありてむしきう梨社をり  
あつたもやうにあつたもやうにわたり  
おほくあつたもやうにあつたもやうに  
あつたもやうにあつたもやうに

まーらひたつたやほねもあつたもやうに  
おほくあつたもやうにあつたもやうに  
あつたもやうにあつたもやうに  
あつたもやうにあつたもやうに  
あつたもやうにあつたもやうに  
あつたもやうにあつたもやうに  
あつたもやうにあつたもやうに  
あつたもやうにあつたもやうに

物にあらざるにまじりてあはれかたなるを  
うらなひてしるすにまじりてあはれかたなるを  
しるすにまじりてあはれかたなるを  
しるすにまじりてあはれかたなるを  
しるすにまじりてあはれかたなるを  
しるすにまじりてあはれかたなるを  
しるすにまじりてあはれかたなるを  
しるすにまじりてあはれかたなるを

あはれかたなるを  
あはれかたなるを  
あはれかたなるを  
あはれかたなるを  
あはれかたなるを  
あはれかたなるを  
あはれかたなるを  
あはれかたなるを

深き淵に身を沈めしむるは  
今更にいふに何ぞして一柱  
みよあやふしき事とて  
志のこころ

寛政六甲寅歳五月



附

- 一 妻の病の重なるに  
終よあやふし
- 一 好人の病中より  
病を治すは  
あやふし
- 一 追悼 追言 追記

祥也

上品麻摺

素輪居士

かんくさくさくさくさくさくさく

病中日記

昭和四年

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

遺書

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

老れ目の中花のぬくみあ  
かきくらしきあまのこ  
硝子よこせぬあきら  
折のけしきつよ子有る  
さゆしやあきねの  
こころかかたりし  
はらのゆきのゆき  
まじかんのまじり  
はらのゆきのゆき

はらのゆきのゆき  
一輪一輪のゆき  
ゆきゆきゆきゆき  
ゆきゆきゆきゆき  
ゆきゆきゆきゆき  
ゆきゆきゆきゆき  
ゆきゆきゆきゆき  
ゆきゆきゆきゆき  
ゆきゆきゆきゆき





~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

歌仙

海客東來一山勢のくまのけり

素輪居士

海客東來一山勢のくまのけり

素七

海客東來一山勢のくまのけり

素七

海客東來一山勢のくまのけり

素七

海客東來一山勢のくまのけり

素七

海客東來一山勢のくまのけり

素七

海客東來一山勢のくまのけり

素七

海客東來一山勢のくまのけり

素七

海客東來一山勢のくまのけり

素七

海客東來一山勢のくまのけり

素七

海客東來一山勢のくまのけり

素七

海客東來一山勢のくまのけり

素七

海客東來一山勢のくまのけり

素七

海客東來一山勢のくまのけり

素七

海客東來一山勢のくまのけり

素七

けいしんしきあまのきん

素太

きんしんしきあまのきん

素之

しんしきあまのきん

玄女

しんしきあまのきん

女  
素尾

しんしきあまのきん

素躬

しんしきあまのきん

近十

しんしきあまのきん

素沙

しんしきあまのきん

允仙

かく道きりしんしきあまのきん

素凡

しんしきあまのきん

素岫

しんしきあまのきん

輪太

しんしきあまのきん

麦南

しんしきあまのきん

翠野

しんしきあまのきん

素五

しんしきあまのきん

麦丹

しんしきあまのきん

速輪

十ウ

十フ

朝まのまゝに〜みりては終 庭山

滑〜かぶ着て終れちり〜 古竜

こと〜ぬぬ〜まをと揺りけ 麦砂

〜もよのけと終り〜 枕込

あひ〜ま〜し〜はれ〜雲 枕筆

老所はゆり〜ゆり〜ゆり〜ゆり  
あ〜ゆり〜ゆり〜ゆり〜ゆり  
〜ゆり〜ゆり〜ゆり〜ゆり

ち〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん 枕也

蓮れ〜〜〜あ〜ゆり〜ゆり 麦口

余〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま 素七

〜〜〜あり〜あり〜あり〜あり 赤砂

心〜り〜り〜り〜り〜り〜り 然

こ〜り〜り〜り〜り〜り〜り 李曹

田  
~~~~~  
~~~~~

小  
~~~~~  
~~~~~

田  
~~~~~

さ  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

田  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

小  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

吏 紅

梅 雄

八 衢

枝 青

平 虚

新けりあゝあゝとせしむる

柳坡

ふおきたは鳥尾まゝとて雨きり

遇齋

まゆわくしぬ今年のふゆ

秋水

ゆきふくぬおまゝはふゆ中こ

莫藤

しづかしくしゝゝ鳥んておく

子脩

辛きあは垣よすゝゝは代官

永又

とくふれまるとまはかたけ

踏花

ぬるの月とまゝはつるん

孔梅

いそぎのあゝとせしむる

南舎

雨れまゝは鑛はまゝとて後屋川

居由

すゝあゝとせしむる

茶葉

もれまゝはまゝとせしむる

飛又

あゝとせしむる

飛又

拈香

いんちやくのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ

あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ

う義亭

素七

百々日

あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ

全

あまのうらみの物

あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ

生露

あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ

あまのうらみ

あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ

茶砂

あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ

あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ

全

あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ  
あまのうらみ

全

こゝろをさしめしむるはなればなれば  
物干しせしむるありしはなればなれば  
ありえんまゝにありしはなればなれば

うはらばらばあはれはなればなれば 枕伏

一七白梅の傍にありしはなればなれば  
すなはちありしはなればなれば

すなはちありしはなればなれば 全

甲子よりありしはなればなれば  
今も梅の傍にありしはなればなれば  
すなはちありしはなればなれば

あはれはなればなれば  
あはれはなればなれば

兄弟合はれしはなればなれば 全

あはれはなればなれば  
あはれはなればなれば  
あはれはなればなれば  
あはれはなればなれば  
あはれはなればなれば

あはれはなればなれば 全

あはれはなればなれば



くろくもあまのこ

素七

あまのこ  
あまのこ

あまのこ

麦四

あまのこ

あまのこ

全

あまのこ

杉雪

あまのこ

李雪

あまのこ

成輪

あまのこ

原楚

あまのこ

活

あまのこ

素三

あまのこ

素雄

あまのこ

女  
多丸

あまのこ

了  
塚

あまのこ

田  
形

~~~~~も~~~~~行方夏也系

輪太

伊れ~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

輪賀

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

麦丹

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

玄竜

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

麦壘

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

麦五

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

麦南

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

素朝

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

女

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

素乐

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

口咽

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

素因

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

素太

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

古道

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

素由

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

素計

一

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

五祖

素類

丁

欠丈

麦華

素秋

素聖

輪存

ありあけの月よ

之原江

時れねばよらん

免海

百しほのほろ

麦路

あゝとて

瓦輪

もろもろ

麦丈

岡の淵

廿

物にあひ

彦山

あゝとて

高所

あゝとて

夏鳥

さうあゝ

石吸

まゝあゝ

抱心

あせのほ

輪之

人あゝ

肩白

あゝとて

唐橋

あつたつこひのちりまゝよふたつたつたつた  
きつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
きつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

綴るれ屋上端〜入す目 麦又

茶略

あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた 留 曾水

二百月れ入〜海京しちりりあを 麦声

あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた 戸ん

あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた 万輪

あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた 麦雨

あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた 命瓶

あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた 鬼川

あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた 二馬

あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた 柳下 紫葉

道はなほ人よきまゝなりきり  
行具 鳴露

ちいさく月夜あつちち月夜  
貝能 志文

あつちちい見えはほきん  
玉布

あつちち物述あつち  
宝衣 免了

あつちちあつちの雨はほきん  
小巻 竹井

あつちちあつちいけり及れ  
道口 羽加

あつちちあつちいけり及れ  
素仲

あつちちあつちいけり及れ  
素因

青水の中へは向の清きうか  
柏川 素牛

あつちちあつちいけり及れ  
八坂 素光

あつちちあつちいけり及れ  
中ノ余 玄輪

あつちちあつちいけり及れ  
昔書 志明

あつちちあつちいけり及れ  
極成 素景

あつちちあつちいけり及れ  
八坂 袒川

あつちちあつちいけり及れ  
長成 寶輪

あつちちあつちいけり及れ  
飯塚 免柳

海おち〜とふいふ〜りる子 小分 麦牛

貴人お紋吉月〜見ははれぬ西 可樂

〜〜〜のむれ〜向う南 佃 素十

若お世と〜〜〜蓮おむ 志樂 其輪

〜〜〜りり〜あ〜とやんさ 約形 界苦

一 声と〜れ〜あ〜お〜〜〜 持屋 如輪

〜〜〜お〜入〜〜〜や 辰輪

一 声と〜〜〜〜〜〜〜 持屋 素己

入〜日と〜〜〜〜〜〜 持屋 輪雪

お〜〜〜〜〜〜〜〜〜 持屋 大輪

〜〜〜〜〜〜〜〜〜 持屋 浪井

美ちお京山雨降〜〜〜 持屋 長明

浪世〜〜〜〜〜〜〜〜 持屋 柳廻

〜〜〜〜〜〜〜〜〜 持屋 梅香

おれ〜〜〜〜〜〜〜〜 持屋 世屋

笛お〜〜〜〜〜〜〜〜 持屋 直之

まはらけあけなほあけくわあま  
山行

月近し中あけきりくけきまた  
素平

丹入り力あせしきりくわ  
麦友

あけあけあけあけあけあけあけ  
素平

いの中あけあけあけあけあけ  
上橋本 唐白

あけあけあけあけあけあけあけ  
相生 兔山

あけあけあけあけあけあけあけ  
了雅

あけあけあけあけあけあけあけ  
楽乗

あけあけあけあけあけあけあけ  
我門

あけあけあけあけあけあけあけ  
素平

あけあけあけあけあけあけあけ  
直道

あけあけあけあけあけあけあけ  
川夕

あけあけあけあけあけあけあけ  
上橋本 章輪

あけあけあけあけあけあけあけ  
沼田 山鶴

あけあけあけあけあけあけあけ  
田子 麦上

あけあけあけあけあけあけあけ  
中橋 麦柳





さかすかにさかすかに

引子

松露

はらへはらへはらへはらへはらへ

吾妻

秋

あまのこころあまのこころあまのこころ

赤松

鳥明

あまのこころあまのこころあまのこころ

武門城

吹厚

あまのこころあまのこころあまのこころ

今

あまのこころあまのこころあまのこころ

如鶴

あまのこころあまのこころあまのこころ

厩里

あまのこころあまのこころあまのこころ

拳水

あまのこころあまのこころあまのこころ

如田

あまのこころあまのこころあまのこころ

其由

あまのこころあまのこころあまのこころ

新川

あまのこころあまのこころあまのこころ

あまのこころあまのこころあまのこころ

あまのこころあまのこころあまのこころ

あまのこころあまのこころあまのこころ

三十一

馬鹿のうらみ 京 繁茂

海老のうらみ 河内城南 如隔

夏竹のうらみ 武州 冷水

ちまのうらみ 玉村 可勇

ちまのうらみ 越前 秀水

ちまのうらみ 越前 桑茂

ちまのうらみ 越前 月雪

ちまのうらみ 越前 藤原

ちまのうらみ 越前 藤原

ちまのうらみ 京 園文

ちまのうらみ 京 藤原

ちまのうらみ 京 方壺

ちまのうらみ 京 藤原

ちまのうらみ 京 雲市

茶略

人しほきりきりかほ

作務山茶 茶葉

しほきりきりかほ

八衢

しほきりきりかほ

枝青

えぬきりきりかほ

隅赤

布れきりきりかほ

踏花

神と魚と喜と之千里

菊壽

茶葉もれきりきりかほ

楓梅

清しほきりきりかほ

天石

杜れきりきりかほ

柳巴

しほきりきりかほ

梅碓

あしほきりきりかほ

秋水

なせきりきりかほ

龜久

しほきりきりかほ

真原

ましほきりきりかほ

子晴

はあしほきりきりかほ

雨汁

入如茶



まゆのーとてあつた今もまゆ

おのり 西奴

まゆのーとてあつた今もまゆ

渡河 文冊

まゆのーとてあつた今もまゆ

近江紙 芦水

まゆのーとてあつた今もまゆ

桑津 重厚

まゆのーとてあつた今もまゆ

上民相生 小枝

まゆのーとてあつた今もまゆ

まゆのーとてあつた今もまゆ

まゆのーとてあつた今もまゆ  
白声

まゆのーとてあつた今もまゆ

まゆのーとてあつた今もまゆ  
白声

白声



入あはれはよき旅あゝ野面への 李雪

月涼一夕をくわくわく作らる

くくすえゆくくくすえゆゆ

字もやとゆくくすえゆゆ止

海を渡りたれくくあゝくく良 源楚

くくあゝよきくくくくくく

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 活十

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 素雄

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ



お代わあ〜〜〜し 猫の尻 寄

〜〜〜か〜〜〜か

〜〜〜か〜〜〜か

〜〜〜か〜〜〜か

〜〜〜か〜〜〜か 丁

〜〜〜か〜〜〜か

〜〜〜か〜〜〜か

〜〜〜か〜〜〜か

〜〜〜か〜〜〜か 輪

〜〜〜か〜〜〜か

〜〜〜か〜〜〜か

〜〜〜か〜〜〜か

〜〜〜か〜〜〜か 麦

〜〜〜か〜〜〜か

〜〜〜か〜〜〜か

〜〜〜か〜〜〜か

梅極〜ゆきを待たす〜  
女 多角尺

〜乃由と極の〜

〜  
〜

〜  
〜

〜  
子産

眠〜  
〜

〜  
〜

〜  
〜

〜  
麦産

掃中〜  
〜

〜  
〜

〜  
〜

〜  
葉風

〜  
〜

〜  
〜

〜  
〜

母下か〜〜〜〜〜母あ〜〜母あ  
素躬

親ハ子ノ口ク入ル〜〜〜〜〜

鈴島カモ〜〜〜〜〜

池ノヲ研ミ〜〜〜〜〜

三ノ柳ノ中ニあり〜〜〜〜〜  
麦丹

夕暮ノ中ニあり〜〜〜〜〜

あまのこ〜〜〜〜〜

常盤の邊にあり〜〜〜〜〜

雨止ぬ〜〜〜〜〜  
虎輪

牛乳子ノ口ニあり〜〜〜〜〜

輪書ノ他ニあり〜〜〜〜〜

あまのこ〜〜〜〜〜

月ノ光ニあり〜〜〜〜〜  
口徑

人ノ口ニあり〜〜〜〜〜

野ノ草ノ中ニあり〜〜〜〜〜

研ミ〜〜〜〜〜

ふれりや一島際へえておしり  
素同

影ふよゆ〜まきふりた〜

切〜一葉苗のれ〜

影〜しれ卒部階の樹〜夕は西

有るや〜〜〜水は 春

か〜橋より〜〜

影ふの露お〜〜

急角あ〜〜

雨まゆ〜小〜ぬまゆ〜極啼〜  
虎輪

牛あ子〜ゆ〜

輪書〜地〜

あ〜ゆ〜

月あ〜〜中〜  
口徳

人〜あ〜

野あ〜〜水あ〜

研〜あ〜

ふたつの中へ鳥居あえておこし

幸四

新島より〜三島へはた〜

おき〜葉あ苗のれ〜

新〜しん卒お階の階〜夕はあ

春〜あ〜ち〜ちり〜水はる

幸六

の〜海より〜ち〜ち〜

新島のお〜ち〜ち〜

ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜

あきつゆ〜ち〜ち〜ち〜

幸七

ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜

ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜

ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜

ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜

幸八

ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜

ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜

ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜

幸九

ち〜もよふあ〜る〜る〜る〜る〜る  
きり

碎〜も〜る〜る〜る〜る〜る〜る

移〜も〜る〜る〜る〜る〜る〜る

折〜も〜る〜る〜る〜る〜る〜る

長〜も〜る〜る〜る〜る〜る〜る  
きり

遠〜も〜る〜る〜る〜る〜る〜る

あ〜も〜る〜る〜る〜る〜る〜る

きり〜も〜る〜る〜る〜る〜る〜る

よ〜も〜る〜る〜る〜る〜る〜る  
きり

改〜も〜る〜る〜る〜る〜る〜る

時〜も〜る〜る〜る〜る〜る〜る

〜も〜る〜る〜る〜る〜る〜る

ね〜も〜る〜る〜る〜る〜る〜る  
可隆

夕〜も〜る〜る〜る〜る〜る〜る

る〜も〜る〜る〜る〜る〜る〜る

こ〜も〜る〜る〜る〜る〜る〜る

おはせりてのりしとてうはせりし

丘福

はらへりてのりしとてうはせりし

おはせりてのりしとてうはせりし

はらへりてのりしとてうはせりし

おはせりてのりしとてうはせりし

么世

はらへりてのりしとてうはせりし

おはせりてのりしとてうはせりし

はらへりてのりしとてうはせりし

おはせりてのりしとてうはせりし

扇白

おはせりてのりしとてうはせりし

おはせりてのりしとてうはせりし

おはせりてのりしとてうはせりし

おはせりてのりしとてうはせりし

雲川

おはせりてのりしとてうはせりし

おはせりてのりしとてうはせりし

おはせりてのりしとてうはせりし

雪ふるりつる　なほ行へば　雪の　白　皚　　、

あふれ　て　霧　く　き　も　け　　、

ほ　ゆ　く　の　後　座　　、

つ　ら　い　山　道　　、

了　蔵　の　世　は　あ　ま　り　　、

そ　の　世　は　い　ち　は　い　ち　　、

わ　る　り　の　世　は　あ　ま　り　　、

わ　る　り　の　世　は　あ　ま　り　　、

陽　ち　の　世　は　あ　ま　り　　、

今　の　世　は　あ　ま　り　　、

昔　の　世　は　あ　ま　り　　、

は　ら　い　の　世　は　あ　ま　り　　、

と　も　は　い　の　世　は　あ　ま　り　　、

と　も　は　い　の　世　は　あ　ま　り　　、

と　も　は　い　の　世　は　あ　ま　り　　、

と　も　は　い　の　世　は　あ　ま　り　　、

一

二





浪のこゝろにま帰れぬあゝ浦の雲 素七

ふ甲中一ふれまゝの落原一

ほくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

つらちの原にありくくくくくく 素七

夕中中中中中中中中中中中中中中

秋の月あはれくくくくくくくく 素七

くくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく 曾水

くくくくくくくくくくくくくくく

月くくくくくくくくくくくくくく

山あはれ海なるくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく 素七

くくくくくくくくくくくくくくく



山崎もくろふあふらふる月夜に  
水も戸物を吹きく浪の上

梅り香や一度きくさむれかこく人 一紅

きくよありのわく人申し部云

あふくふかきあふりよ言のこえ

こけくふあふりよ言のこえ

こけく入やこけくあふりよ言のこえ 湯水

杜崎ふくわあふりよ言のこえ

あふりよ言のこえ

梅もあふりよ言のこえ

甲子子浪難

きくよあれのあふりよ言のこえ 素之

あふりよ言のこえ 素五

あふりよ言のこえ 寿令

あふりよ言のこえ 免地



満一ふのしとくハ相れつと云

素十

らうけれいあましく養うかんこ

素系

あゝ唐井南とくむしとまは秋

麦穂

一剛つと細くはとくの小結

古道

諸人の心は河に投りまよひ

雪鶴

只ひ河にあま静きと新井繁

可作

まろくち球儀とくちと一帯

芳窓

もくくくくくくくくくくく

亭

形勢はあつと満一折師一系

桃里

藤よとくは抱く白と何とに三た

素寸

あま言とくくくくくくくく

东馬

くくくくくくくくくくくく

素眼

あまあまあまあまあまあま

抱子

あまあまあまあまあまあま

不吸

あまあまあまあまあまあま

素窟

あまあまあまあまあまあま

素心

おもしろいことあるや

麦来

かたはちうと友と集る月

其抱

まろくねくつ夜に

庭山

のれに海くつと

素堂

色は紫に機械忘の

きー

東折に折し梅の

祖星

紙子に

男振

まろくねくつと

渡凡

名目や幸よか

善扇

まろくねくつと

麦弘

片に

去卯

名に

麦明

二層に

寿元

眼に

相祖

まろくねくつと

福中

まろくねくつと

素已

持室

けりぬれーるけちや枯ゆき、  
辰輪

橋やむー男が番とゆーー  
如水

おとんーおとぬー夏あま  
輪雪

かーかーかーかーかーかーかー  
素光

かーかーかーかーかーかーかー  
夏流

かーかーかーかーかーかーかー  
素泉

かーかーかーかーかーかーかー  
素玄

かーかーかーかーかーかーかー  
素上

かーかーかーかーかーかーかー  
見祖

かーかーかーかーかーかーかー  
文山

かーかーかーかーかーかーかー  
免上

かーかーかーかーかーかーかー  
芝角

かーかーかーかーかーかーかー  
一丁

かーかーかーかーかーかーかー  
素王

かーかーかーかーかーかーかー  
亭祖

かーかーかーかーかーかーかー  
吟水

授の梅よんもあち〜〜〜  
素那

隙よ〜〜をけり〜〜  
吾妻 如泉

指と胸〜杉よ蝶お〜  
上植木 圭輪

日よ中か〜  
章輪

ありあか〜  
生不 麦瓶

〜白蓮〜  
新河原 鶴秀

〜  
横塚 寿松

〜  
小島 東川

〜  
冥根 素河

〜  
生不 可笑

〜  
西牧 白貨

〜  
伊勢橋 芦舟

〜  
相生 色西

〜  
伊勢橋 二喝

〜  
佃 素庚

〜  
砂十

崎し思ふとおめしりし風

三つ書  
少女 美依

あしひんふれいふおしりし風

上久ヤ  
梅川

まき色叶しりし梅はしりし風

美計

枯しあしりし風

素唱

蓮れ葉のあしりし風

秀也

苗代中あしりし風

大八本  
愛舟

埋りしあしりし風

下仁田  
曾柳

花のあしりし風

玉村  
果籠

しりし風

あしりし風

夷冠

あしりし風

川二

あしりし風

少女  
歩丈

あしりし風

秋  
抱月

あしりし風

桂賀

あしりし風

少女  
白水

あしりし風

作雨

水鏡さあ〜名は小世は月原 芝雄

川まふ〜あ〜梅さ〜る原は月原 三橋 玉菱

あ〜人の足さき〜一〜まはあ〜 周玉

あ〜う〜あ〜形〜に〜あ〜あ〜あ〜 涼好

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 小保子 希安

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 白井 南史

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 湖月

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 龜考

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 赤白

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 留 書郎

諸玉文通

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 蝶菱

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 周史

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 佐良上田 雲帯

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜 麦二



田井行と鹿角のあうりぶ  
 風の傍うらうらとあれきり、井  
 夏よ、こころは樹の影をなが  
 らの影とあつみのうらまをなが  
 照やわらわきえぬ雨あう蓮  
 うらやせおそはささとあく夏の色  
 晴きく、片おぼろけ、後のしき  
 まは雨降しうらまをながれり、  
 方壺

一室やあうりぶとあうりぶ  
 雲は白くうらうらとあれきり、  
 海君の魚とあうりぶとあれきり、  
 まるやよきあれ柳とあれきり、  
 雨にうらまをながれきり、柳也  
 寂んんとうらまをながれきり、知白  
 雨はあうりぶとあうりぶとあれきり、  
 人ねの枯木の折子のえきり、  
 全白  
 虚白



るやいふおのりやあけ中

鐵後 柵路

蕙園といふハ夫の持香の仲

七十八篇 山之

あけのゆれあふるこもあけ

後凡

あけやあけいハあけあけあけ

古声

凡中あけあけあけあけあけ

物勇

あけあけあけあけあけあけ

恭嫁

あけあけあけあけあけあけ

札友

あけあけあけあけあけあけ

葛下

日影のうけあけあけあけあけ

牛琴

あけあけあけあけあけあけ

柵凡

あけあけあけあけあけあけ

全系城 女

あけあけあけあけあけあけ

みよ

あけあけあけあけあけあけ

柵扇

あけあけあけあけあけあけ

涼凡

あけあけあけあけあけあけ

菰扇

あけあけあけあけあけあけ

全系 女 柵琴

きつたあつちのさけしつる月夜あつち

ほつちあつちのさけしつる月夜あつち

むつちあつちのさけしつる月夜あつち

ふつちあつちのさけしつる月夜あつち

なつちあつちのさけしつる月夜あつち

はつちあつちのさけしつる月夜あつち

よつちあつちのさけしつる月夜あつち

ゆつちあつちのさけしつる月夜あつち

ゆつちあつちのさけしつる月夜あつち

ゆつちあつちのさけしつる月夜あつち

ゆつちあつちのさけしつる月夜あつち

ゆつちあつちのさけしつる月夜あつち

ゆつちあつちのさけしつる月夜あつち

ゆつちあつちのさけしつる月夜あつち

ゆつちあつちのさけしつる月夜あつち

ゆつちあつちのさけしつる月夜あつち

ゆつちあつちのさけしつる月夜あつち

全原 廻前

萩 支元

長門 長門

利水

作母

小雅

其成

全原

萩

長門

利水

作母

小雅

其成

眉山

高木園

其成

眉山

高木園

其成

眉山

高木園

其成



枯一野也入定塚此子此者 素九

玉柳子玉心一子番此嬌り横宮 画山

玉柳子子向此片由此こ有れり 放牛

山ハまゝくも二年少吹くも此由 三矢

常和節康一して居新よ 唱 山月

馬扱扱子身中川色此こ有れ秋 相生 奇江

千も和満北松北汝り八幡 可也

利さしよ一日似りりまの由 常列流下海 巴咄

如龍さうまを根中しつる身と極長

とふかしくとふかしくつれり夫て是

とふかしくとふかしくつれり夫て是

とふかしくとふかしくつれり夫て是

とふかしくとふかしくつれり夫て是

とふかしくとふかしくつれり夫て是

とふかしくとふかしくつれり夫て是

とふかしくとふかしくつれり夫て是

海ととも備へしもの人たれは  
精申とこし防備のこころ  
きりきりしつとけり  
けりし人たれは  
けりしとて  
むかひしとて  
橋あよのせし  
こけりしとて

あつひきし  
かきし  
あつひきし  
あつひきし  
あつひきし  
あつひきし  
あつひきし

解説———

夏とおとろけ

本丸菴  
兼砂

春の福れぬ———  
夏も月雲の涙にあはれけり  
ふれさるるにふれぬよふに  
これえとけり———  
よふ人何事かたれか  
風流はまじきと  
年乃々月々———





丸田  
飯野氏

いゝゝゝ

いゝゝ

いゝ

一 32

